



認証取得事業所を中心に、省資源対策として紙の削減を推進しています。全ての事業所において再生紙の使用を実施し、一部特殊な用途を除いてほとんどの紙は再生紙を使用しています。また、水の使用量削減については、冷却水循環装置やドライタイプ真空ポンプの導入、および日常的な節水活動等を通じて実施しています。

紙の使用量削減についての取り組み事例

大津事業所では、1999年4月より完全古紙(古紙率100%)の再生紙へ切り替えています。また2000年度は、各部での回覧書類について電子化の促進と裏紙利用の促進を更に推進して行きました。尚、裏紙の総使用枚数は2万6千枚でした。全事業所においてコピー用紙の両面を使用し、また縮小コピーとすることで紙の使用量を削減しました。更にできるだけ紙を使わない様に、電子情報へ置き換える取り組みも進めています。

水の使用量削減についての取り組み事例

大津事業所では、真空ポンプの排水回収化工事を実施しました。具体的には、今までポンプの冷却として使用していた水は捨てていましたが、それを循環式工事によりタンクに回収し、再び冷却水として利用することに変更しました。

導入後の削減効果として830 /月の削減効果が確認できましたが、工業用水全体の使用量は増産等の影響で増加してしまいました。

熊本事業所では、真空ポンプ2台をドライタイプへ更新する工事を実施しました。具体的には、今までの水を使用するタイプから水を使用しないタイプへ変更することで水及び電力の使用量を削減するというものです。

導入後の削減効果は、同時期に熊本事業所から合志事業所に多数の人が移動するということがあったため、正確な削減量は確認できませんでしたが、今まで使用していた水の量(518kl)は確実に減少しています。



排水回収設備

その他の取り組み事例

大阪支社をはじめ数力所の事業所では、リース期限が切れた社有車から順次ハイブリッド車やグリーン税制適合車に置き換えています。大阪支社の調査によれば、ハイブリッド車の燃費は通常のガソリン車の2倍となりました。この事実から、省資源および省エネルギーに効果があり、大気汚染および地球温暖化の防止に、僅かとはいえ寄与していると言えます。

相模事業所や山梨事業所などでは、地球温暖化問題への対応のために、車両の駐停車時の無駄なアイドリング抑制を推進しています。



「アイドリングストップ」の看板